

麻酔科

ペインクリニック(疼痛)外来では、带状疱疹後神経痛(オビクサのあとの痛み)や外傷後神経痛など神経が障害されたために生じる痛みの治療を主に行っています。局所麻酔薬を用いた神経ブロックのほか麻薬を含めた各種薬物療法を駆使して痛みに対処します。痛みが慢性化すると痛みの制御はますます困難となるため、市販の痛み止め等で効かない場合は早めに当科へご相談下さい。毎週木曜日の午前中に開いてい

ます。

麻酔科部長 若松 正樹



患者さんの声

私の娘も20年近く前に、ハンドボールで肩関節を脱臼し、手術をしていただきました。それ以来、快調に毎日を過ごしております。また、主人も火災現場でひじ関節を骨折して、M大学で治療を受けながら30年来、痛い痛い毎日過ごしておりました。しかし、労災の先生のご相談したところ、すぐにレントゲンを撮って、貴方の場合は、この骨が痛みを生じさせるものであり、手術してもまた同じようになる可能性があるので、「痛みと上手にお付き合いしてください。」と診断していただき、その後、納得して、自分にしっかりと言い聞かせてしまうことができましたようです。そのとき、やっぱり、立派な先生の言葉には重みを感じました。今度は私が脊髄狭窄症と診断されT病院で治療を受けていましたが、快方することなく毎日が痛みの連続で、以前より痛みが増してきたので、藁をも掴む気持ちで、中部労災病院の加藤文彦先生に予約なしで診察をお願いしたところ、休日にも係らず快くMRIを撮っていただき、後日、即刻診断(T病院の診断とは異なっていました。)していただき、本入院し、治療する運びになりました。

私と主人は、先生が「治してあげるから安心しなさい。」との言葉に大変力をもらいました。「さー。」今日からは、職業を持ちながら病気と闘うことにはなりますが、中部労災病院の先生方、そして多くのスタッフの皆様、お世話になりますが、よろしくお願ひします。

2009年2月5日(名古屋市守山区 K.H)

編集後記

NHK 02/11放送「双子に学べ」を見ました。一卵性双生児は遺伝的に同一なので仕草や考えも似るが、歳をとると外見も似なくなる兄弟もいるとか。必ずしも同じ病気になり易い訳ではなく、これは環境や過ごし方の違いによるとのことです。つまり、健康も学業成績も遺伝の影響より、日頃の心掛けに左右される部分が多いということになります。日々の過ごし方に気を付けなくてはと改めて思いました。

(M.M.)